

保阪正康さんの 【言葉で読み解く昭和史】



講師 ノンフィクション作家 **保阪正康** Masayasu Hosaka

【ハイブリッド】 丸の内キャンパス、オンライン（Zoom）いずれでも参加可能です。ご希望は事前にお伺いします。今後の状況によって【オンラインのみ】に開催形態を変更する場合があります。

身を賭して訴えた人たちの言い分

「昭和」という時代の回り舞台は、さまざまな装置でほどこされていました。不況、農業恐慌、テロ、侵略、独裁、戦争、敗戦、占領、戦後民主主義、再軍備、反体制運動、高度成長、公害等々。それらの装置によって、時代と人間は大きくゆれ動きました。時代を動かした人、流された人、掉さす人、さまざまな人がいました。

そこには必ず「言葉」がありました。それは時に抑圧者の呻きであり、決起した者の声明であり、大事件を象徴する名言であり、天皇のおことばでありました。何事かを、身を賭して訴えた人たちの言い分ともいえます。

本講座では、「声明」「檄文」「遺言」「手紙」「おことば」等々さまざまな形態で発信された「言葉」を題材にします。いまそれらの「言葉」を読むと、多くの場合、行為者・発信者の意図と歴史的評価が異なっていることに気づきます。それはなぜなのでしょう、その違いを浮かび上がらせることで昭和史を分析したいと思います。

保阪正康

4・16|±
14:00-17:00

弾圧・抑圧された者の言葉 1

- ◆南京で抗日運動に蜂起した学生達が撒いたビラ（昭和6年）
- ◆共産党幹部佐野学・鍋山貞親の獄中転向声明（昭和8年）
- ◆斎藤隆夫反軍演説（昭和15年）
- ◆ジャーナリスト桐生悠々「他山の石廃刊の辞」（昭和16年）

7・16|±
14:00-17:00

高度経済成長期の言葉 4

- ◆昭和31年 年次経済報告（昭和31年）
- ◆池田勇人首相 施政方針演説（昭和35年）
- ◆東大安田講堂「最後の時計台放送」（昭和44年）
- ◆田中角栄首相 所信表明演説（昭和47年）

5・14|±
14:00-17:00

決起した者の言葉 2

- ◆石原莞爾「満蒙問題私見」（昭和6年）
- ◆五・一五事件の陸海軍青年将校・農民同志の檄文（昭和7年）
- ◆二・二六事件の「蹶起趣意書」（昭和11年）
- ◆磯部浅一の獄中日記（昭和11年）

8・20|±
14:00-17:00

事件を象徴する言葉 5

- ◆よど号事件赤軍派「出発宣言」（昭和45年）
- ◆三島事件 楯の会隊長三島由紀夫「檄」（昭和45年）
- ◆グリコ・森永事件「第1挑戦状」（昭和59年）
- ◆葬式ごっこ”被害者少年の遺書（昭和61年）等々

6・18|±
14:00-17:00

時代に刻まれた言葉 3

- ◆「開戦の詔書」（昭和16年）、「終戦の詔書」（昭和20年）
- ◆特攻隊員 上原良司の遺書「所感」（昭和20年）
- ◆沖縄戦 大田実海軍司令官の自決前電文（昭和20年）
- ◆翁長雄志沖縄県知事「平和宣言」（平成30年）

9・17|±
14:00-17:00

天皇のおことば 6

- ◆昭和天皇「新日本建設に関する詔書」（昭和21年）
- ◆平成の天皇「即位のおことば」（平成元年）
- ◆平成の天皇「退位に関わるおことば」（平成28年、同31年）
- ◆今上天皇「即位のおことば」（令和元年）

保阪 正康(ほさか まさやす)

1939年北海道生まれ。同志社大学文学部社会学科卒業。日本文藝家協会、日本ペンクラブの会員「昭和史を語り継ぐ会」を主宰。主に日本近代史(とくに昭和史)の事象、事件、人物に題材を求め、延べ4,000人余の人びとに聞き書きを行い、ノンフィクション、評論、評伝などの分野の作品を発表している。

現在、『昭和史の大河を往く』シリーズ(毎日新聞社)は、全13巻を数えている。一連の昭和史研究で、2004年に菊池寛賞を受賞。2018年に『ナショナリズムの昭和』で和辻哲郎文化賞を受賞。

主な著書

『東條英機と天皇の時代』(ちくま文庫)


『参謀の昭和史 瀬島龍三』(文春文庫)

『定本 後藤田正晴: 異色官僚政治家の軌跡』(ちくま文庫)

『昭和陸軍の研究』上・下巻(朝日選書)

『吉田茂という逆説』(中公文庫)

『陰謀の日本近現代史』(朝日新書)

日程	2022年 4/16、5/14、6/18、7/16、8/20、9/17 (すべて金曜日)
開催形態	ハイブリッド(丸の内キャンパス・オンライン)
回数	6回
時間	14:00-17:00(3時間)
定員	25名
会場	慶應丸の内シティキャンパス／オンライン
参加費	110,000円(税込)
おすすめしたい方	<ul style="list-style-type: none"> 日本の近現代史、特に昭和史について知見を深めたい方 これからの日本のあり方、世界の中の日本の位置づけについて、歴史を通して考えたい方
申込み	http://www.sekigaku-agera.net/ 

講座の開催方法およびキャンパスにお越しになる皆様へのお願い

本講座は【ハイブリッド】形態で開催いたします。ただし今後の状況により【オンラインのみ】に開催形態を変更する場合があります。お申し込みにあたっては、下記開催形態およびキャンパスへお越しになる皆様へのお願いをご確認の上、ご協力のほどよろしくお願いたします。

【ハイブリッド】



ハイブリッド開催とは

- 丸の内キャンパス、オンライン(Zoom)いずれでも参加可能です。
- 参加方法は毎回選択していただけます。ご希望は開催前にお伺いします。

オンライン参加について

- オンライン会議システム「Zoom」を使って配信します。
- パソコン(またはスマートフォン、タブレット)およびインターネット環境があれば、どこからでもご参加いただけます。
- Zoomを初めてご利用の方には操作方法をサポートいたします。

キャンパスにお越しになる皆様へのお願い

- 事前に体調を確認の上お越しください。発熱、咳などの症状、体調不良、また過去2週間以内に感染が引き続き拡大している国や地域に訪問歴がある場合はご来場をお控えください。
- マスクの着用をお願いいたします。
- 手洗いや備え付けの消毒液のご使用、咳エチケットのご協力を願いたします。

会場の感染予防措置

- 講師およびスタッフのマスク着用、手指消毒、体調管理の徹底
- 教室共用部分の清掃、消毒(机、椅子背もたれ、ドアノブ等)
- アルコール消毒液と清浄綿の設置
- 可能な限り間隔を開けた座席配置
- 常時空調換気と適宜教室扉の開放換気
- 喫煙ルームの閉鎖

お問い合わせ 東京都千代田区丸の内2-5-2 三菱ビル10階 株式会社慶應学術事業会
TEL:03-5220-3111 info@keiomcc.com



今後の状況によっては対応施策が変更となる場合がございます。ご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願申し上げます。